



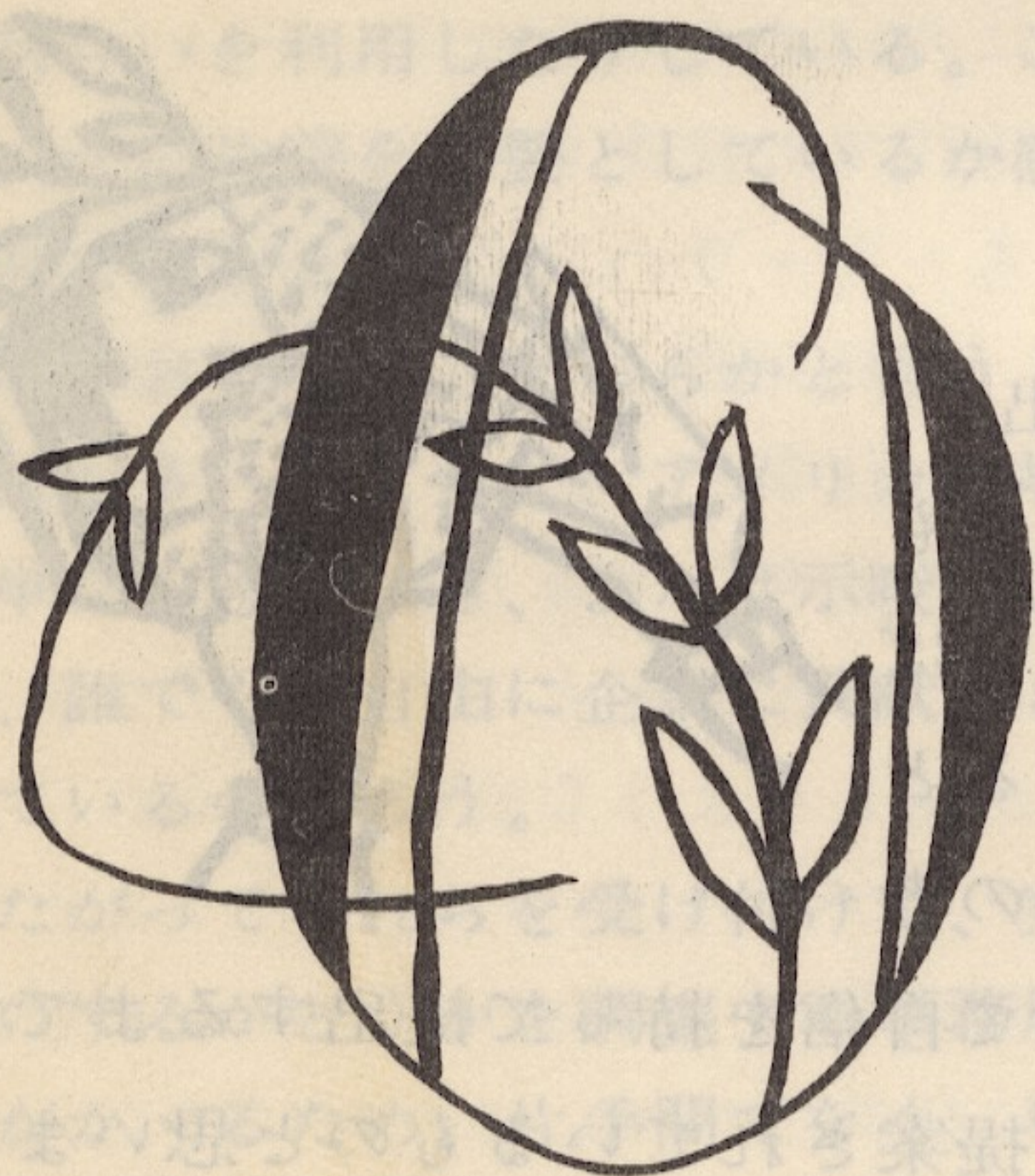
IDEA

1968. 9.

21号

提案制度運営委員会 • 発行責任 担当 運営委員

Originality



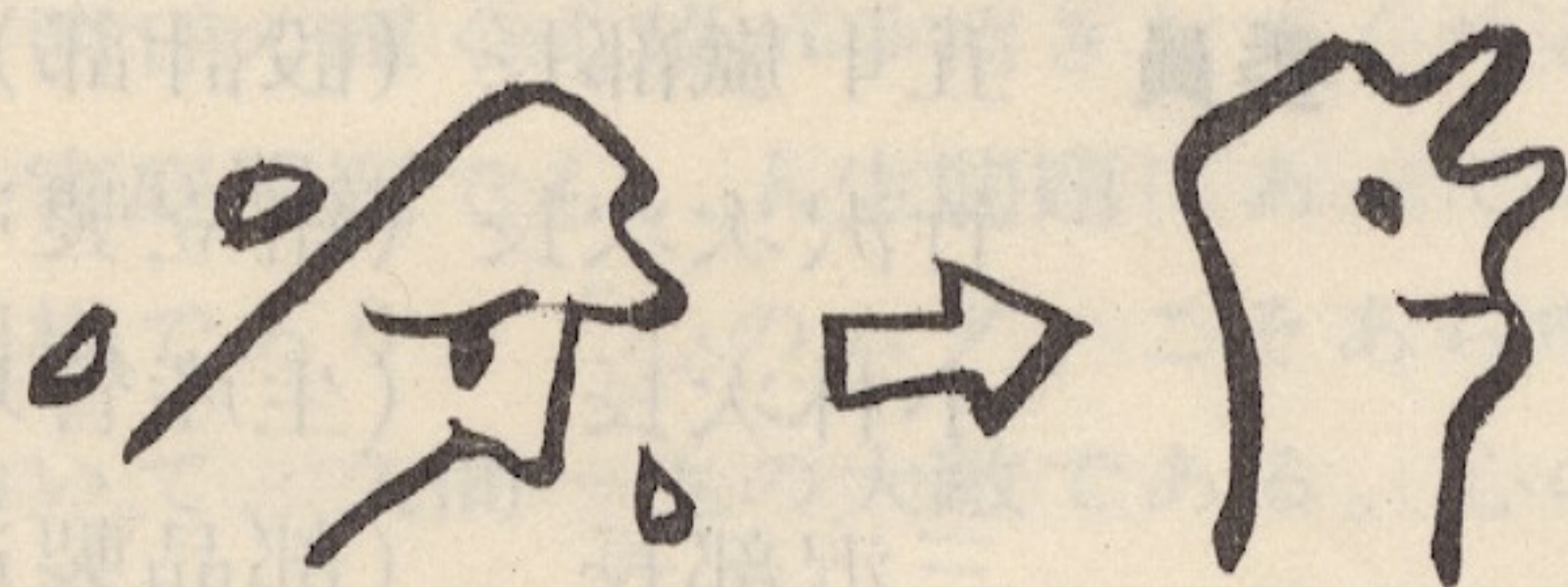
独自のものを持って
いなければなら
ない。これからは
人マネではやって
いけない。自分自
身の創意を持って
やってゆきたい。

今期のテーマ



能率向上

私たちの職場は宝の山、
あなたは仕事に熱心です。こんどの仕事はどうも
やりにくい。何かよい方法は？
作業標準を改善——。



ペトリカメヨ株式会社

43年 8 月 期 一 般 提 案 採 用 案 件 及 提 案 者

<div data-bbox="266 308 436 514" style="background-color: white; width: 80px; height: 70px; margin-bottom: 5px;"></div> <div data-bbox="489 308 787 382" style="background-color: white; width: 140px; height: 25px; margin-bottom: 5px;"></div> <p style="text-align: center;">製品検査部 班長 6 級 ミラー枠蝶番糸貼り</p> <p>提案経歴</p>	<div data-bbox="1138 308 1308 514" style="background-color: white; width: 80px; height: 70px; margin-bottom: 5px;"></div> <div data-bbox="1372 308 1670 382" style="background-color: white; width: 140px; height: 25px; margin-bottom: 5px;"></div> <p style="text-align: center;">部品製造部試工課 7 級 28吋施盤用 バイトガイド</p> <p>提案経歴</p>
<div data-bbox="266 749 436 955" style="background-color: white; width: 80px; height: 70px; margin-bottom: 5px;"></div> <div data-bbox="489 749 787 823" style="background-color: white; width: 140px; height: 25px; margin-bottom: 5px;"></div> <p style="text-align: center;">製品検査部 班長 7 級 外観不良(傷)防止</p> <p>提案経歴</p>	<p style="text-align: center;">記念品</p> <div data-bbox="1191 808 1372 867" style="background-color: white; width: 85px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div data-bbox="1713 749 1883 808" style="background-color: white; width: 80px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <p style="text-align: center;">部品製造部試工課</p> <div data-bbox="1191 940 1372 1117" style="background-color: white; width: 85px; height: 60px; margin-bottom: 5px;"></div> <div data-bbox="1702 896 1915 1102" style="background-color: white; width: 100px; height: 70px; margin-bottom: 5px;"></div> <p style="text-align: right;">部品製造部 2 課</p>

提 案 者 の 声

8 月 期 提 案 に 応 募 し て

私は前月、ニュートン原器製作改善という提案を提出し、幸い6級の採用を得ましたが、その感想は？と聞かれても特に人に語る様なものもありませんが、あえて申すならば提案をするということは大きな勇気と努力を必要とするということです。勇気とはこんな提案をして……と自分の考えを他人に知られる不安で、こうした不安を乗り越えて自信を持って提出するまでの努力は並大底ではありませんどの提案者も同様な努力をして提案されているものと思いますが、こうした努力が認められて採用されたときの喜びと誇りも又同様に大きく、たとえ記念品、不採用となっても自分の考えを発表した満足感は何れも得難いものです。



ニ ュ ー ス

審 査 委 員 が 新 し く な り ま し た。

すでに7月の分から新しい審査員によって行われています。みなさんの提案されたものは、今までと同様、迅速に公平に審査されますので宜敷く願います。

メ ン バ ー

- 主 査 柳沢部長 (技術部)
- 委 員 五十嵐部長 (設計部)
- 次次長 (組立製造部)
- 次長 (生産管理部)
- 部長 (部品製造部)
- 次長 (光学部)
- 課長心得 (埼玉製作所)

提案制度 (アメリカ)

提案制度については、すべての会社が採用して、企業における1つのシステムとして常識化されているらしい。

提案制度の意義について、今さら述べる必要がないと思われるので、提案制度の傾向を調べてみました。

最初のうちは数多く出るものであるが、年ごとに減少する傾向がある。これを防止するために、工場の多くの場所に提案用紙を用意したり、提案箱を置いたりして、提案をすゝめるポスターや、パンフレット、を作っている。動作改善月間、材料節約月間をもって、いる点など、どこも同じと感じた。

他に、提案者に賞金を送る場合に、本人ばかりでなく、その妻に、電気アイロン、電気洗濯機を送って、本人を刺激する事は勿論、主婦同志の話合いを利用したりしている。これ等は企業がいかに改善を必要としているか感じさせられる例であると思う。

日本においては、どちらかと言うと改善結果の申請が多いらしいが、アメリカの場合は、提案は単なる思いつき、または示唆でよいのであって、誰でもが自由に企業に貢献できる門戸を明けているのだろう。

したがってこれらを受け付けて、実際に採用に値いするかどうかを調査する事務局は大変な負荷がかかるため、片手間ではなく、専門にこれを担当する人をもっている。数多くの提案されたものを、実施できるものは、これを具体化し、他の作業、分野に応用出来るものはさらに検討している事を知れば、専門に提案制度を担当する人が必要だという事がわかる。提案制度からは、改善を専門にする職務の人や、管理職は除外されている。

審査会は、工場の幹部とその提案されたアイデアの価値と評価出来る能力を持った人々で編成されていて、スピーディーに処理し、提案した人々にその結果がすぐわかるよう月に2回の審査会が一般に開られている。

賞金額については、ほとんどが、改善初年度節約額に対しての%で処理しており、節約額の算出出来ないものは、提案者と相談して決めたりしている。

最後に提案制度の実績が紹介されているので次に記しておく。

コンペアー航空機会社

従業員数 23,000 提案数19595

採用% 29%

節約額 年間 4,812,000ドル

NCR

従業員数 25,000 提案数 4,972

採用% 16%

節約額 年間 3,000,000ドル

A T 記

心のムダ

ムダなき人生、これがわれわれの理想である。物をムダにせず、時を浪費しないことはもとより重要であるが、それ以上に大切なことは、「心のムダ排除」ということであろう。だれでも、昨日への深い反省と明日への千慮の要が大切であることは十分承知していながらも、これがなかなか思うようにはいかない。さて、心のムダ排除ということだが、たとえば一度過ぎさった失敗は元に戻らないのであるから、いつまでもクヨクヨとこだわっていないで、明日からはもっと頑張って二度と同じ過誤はやらないぞと堅く決心するように、心の方向転換することが大切である。また、もしこれが失敗したらと思案ばかりしていないで、むしろ1つの段階における失敗があつてこそ、つぎへの新しい創意も工夫も生れてくるものであることを知り、古米からの大発明や大発見も一度で成功した例は一つもなく、それらは全部が全部とっていいほど大きな試練と不断の努力によって、始めて得られたものであったことを思い、上役にこんな相談をしたら叱られるとか、こんな意見をいったら同僚に笑われるかも知れないなどと、心配や不安にとざされることなく、勇気をもって行動することが大事です。すなわち、われわれは「よしやるぞ」と決意した以上は力強く立上り、まず足元から固め一步一步積み上げつつ前進することが肝腎である。心のムダを排除して、喜びと勇気をもって毎日仕事に打込んでこそ、未来に美しい花を咲かせる立派な樹木が育つのであり、明日の輝く希望が手招きしてくれるのである。家庭問題でも、人生問題にあつてもまったく同様であり、「心のムダ」こそあらゆる場合において、久間一生の大敵である。心のムダを排除して、自分の境遇をそして使命を喜び知る者にこそ、大きな力が湧きかつそれを乗り越えていく道が自づから開かれるのではないだろうか。

